

# 漁民ネット通信 43

有明海漁民・市民ネットワーク（漁民ネット）  
 〈東京事務局〉  
 〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷3-11-4-205  
 SYスタジオ内 TEL/FAX 03-3986-6490  
 Eメール ph@ariake-gyomin.net  
 ホームページ <http://www.ariake-gyomin.net/>

## 諫早湾干拓をめぐる最近の動向

陣内隆之（漁民ネット事務局）

昨年7月末の請求異議訴訟控訴審（福岡高裁）で国が逆転勝訴してから9カ月、この間、諫早湾干拓（諫干）関連の報道記事はすっかり減り、一見鎮静化の様相を呈しています。しかし、問題は何ら解決されておらず、今期のノリ漁も色落ち被害が広がるなど有明海は深刻な状況が続いています。漁業権10年更新論を根拠にした福岡高裁の判決に対しては、専門家から多くの疑問が噴出しており、最高裁で差し戻し判決を取るべく漁民弁護団も奮闘しています。漁業権を大企業に開放することを狙った漁業法の改正が昨年秋の臨時国会で行われ、国の「水産改革」に対する抗議の声が全国か沸き起こっています。福岡高裁判決はこれを取ったものと言えることから、漁民ネットも全国沿岸漁民連絡協議会の会員となって、全国の沿岸漁民とつながり情報共有を図っています。

裁判関係では、長崎地裁での営農者訴訟と即時開門2・3次訴訟の審理が続いています。漁業者VS農業者という国が描いた構図が崩れ、農業者も被害者であることが可視化されました。諫早市民有志が続けている干拓地住民への訪問署名活動では、国や長崎県から正しい情報が与えられず「開門反対」の根拠は誤解や未知によるものであることが明らかになっています。「それなら開門に反対しない」という声も聞かれ、対話の重要性をひしひしと感じます。国や長崎県の妨害は犯罪的と言えます。

2・3次訴訟では双方の証人尋問が行われました。熊本保健科学大学教授の高橋徹さんの調整池水質と有毒ア

オコ問題の提起に対して、国は調査方法の細部の尋問に終始し、それも原告側の反証によって調整池排水による生態系汚染論を崩すことはできませんでした。熊本県立大学教授の堤裕昭さんの諫干因果関係論について、国は有明海評価委員会の報告などを根拠に追及しましたが、堤さんから国側が示した証拠の調査方法やデータのまとめ方の不適切さを指摘され、国側はぐうの音も出ませんでした。YES/NOの尋問の後の突っ込みがなく、待ち構えていた堤さんも拍子抜けするほどでした。一方、評価委報告書作成に事務局として関わった環境省の根本桂三さんの尋問で、国は評価委報告がきちんと手続きを踏んで作成されたものであることを印象付けようとしたが、評価委が開門調査の評価を扱わないとする方針を含めて、委員の意見さえも抹殺する事務局の主導で作成された報告書であることが明らかにされました。また、干潟減少や諫早湾内の潮流減少、成層化、貧酸素、魚類減少等について、報告書からも諫干との因果関係を読み取ることができることや従来の再生事業では限界があることを追及し、証人は苦しい言い訳に終始しました。潮受け堤防閉め切りが有明海の貧酸素水塊の一因であることは佐賀大学准教授の速水祐一さんからも報告されており、まっとうに審理すれば漁民側の勝訴となることは明らかです。なお、堤さんの理論については、漁民ネットでも潮流調査を行って補強したいと考えています。

以上のように、開門を求める根拠は次々と補強されており、決して諦めることはありません。漁連漁協が原点にかえて国に開門調査を求めていくよう、現場での働きかけが大切です。これからも力を合わせて粘り強く行動していきましょう。

## 有明海漁民・市民ネットワーク 2019年度〈第18回〉総会のお知らせ

●日時：2019年6月15日（土）14時～17時（開場13時30分）

●場所：柳川市大和漁村センター（中島コミュニティセンター）

福岡県柳川市大和町中島385 TEL 0944-76-0864

今回は全国沿岸漁民連絡協議会事務局長の二平章さんに、漁業法改悪をめぐる全国の闘いについて報告していただき、有明海の裁判における漁業権の問題についても一緒に考えます。みなさまぜひご参加ください。

☆総会終了後、18時半頃から大牟田市内で懇親会を行います（当日受付）

☆お問い合わせ：TEL 090-8462-4211（吉川）





## 漁師さんたちから聞いた話 (ノリの話)

有明海ノリ販売枚数日本一…今年もニュース等で取り上げられた大変喜ばしい事実だが、背景には、全国的なノリ不足、ノリ不作も裏にあるようだ。コンビニおにぎりや恵方巻のブームで、ノリの需要は伸びているが、ある記事によれば、全国的なノリの育成環境の悪化により、年間約90～100億枚の生産を当たり前にしていた数年前に比べ、昨今では、約70～80億枚が平均になっているという。その中で有明海から約35億枚のノリが今年も生産されたというのだから、有明海からの生産が占める割合は確かに大きい（が、前年度より約5億枚減）。全国的な生産減の主な理由は、地球温暖化による高水温や降水量不足による栄養塩不足、また事故や自然災害といわれており、有明海のノリ漁においても、もちろん考えられる理由ではある。そこで、ノリ漁師何人かに、昨年度のノリ漁を終えての感想を細かく聞いてみた。

どの地域の漁師たちも多かれ少なかれ、赤潮の被害に苦しんだ時期があり、そのため、「ヒヤヒヤしたことが何度もあった」と漁期を振り返る漁師が多かったが、それを乗り越え、質のいいノリも採れたと自慢気に話してくれた漁師もいた。だが、全国的にノリの品薄状態の影響で高値がつき、それに救われたことを口にする人も多かったことが印象的だった。ある福岡漁民は、今まで7円ほどだったノリが10円以上の値がついたこともあった…と話してくれた。「単価に救われた」という声が各地で聞かれた。

昨年は、ノリ網の張り込みが高水温でかなり遅れ、その後11月頃、赤潮発生による色落ちが各地で確認され、熊本県では、早めに秋芽の収穫を終えた地域もあり、厳しい状況が予想されたが、一部地域（熊本県西部、佐賀県西部）を除いて、12月下旬からの冷凍ノリ（秋の内に途中まで生育して冷凍保存しておいた網）の生産が順調に伸びた

吉川多佳子（漁民ネット事務局）

こと、また前述した通り、単価がよかったことから、平年作または今までで一番の生産高になったという地域もあった。ただ、「枚数は上がっていないよ」と漁民らは強調する。

被害のひどかった佐賀県西部では、冷凍ノリの色落ちが回復せず、摘採がたった2日（通常3カ月近く行われる）で終了した地域もあったという。ある佐賀県西部の漁師によれば、彼の持ち漁場の一番西側では、ノリに黒い色が全く付かず、値段も付かず、廃棄を余儀なくされた網もあったという。彼の漁場は、諫早湾からの排水の影響も感じたが、川からのゴミにも苦しみ、特にカモの羽がノリに入ったことでそれを取り除くことが困難で売り物にならなかったこともあったとのこと。カモの被害といえば、諫早湾干拓農地を思い浮かべるが、その漁師によれば彼の漁場の周辺でもカモは増加傾向にあるという。潮流の鈍化傾向も毎年肌で感じているらしい。また、ノリ漁期終了後の春は、赤貝を採るそうだが、その西側のノリの色の付かなかった漁場では、赤貝も育たずに死んでしまうとのこと。「底がもう変わってしまっている」と聞いた時、海は底層から悪くなり、それが徐々に上方に広がり、最後に表層のノリに影響が出る…と以前専門家から聞いたことを思い出し、ゾッとした。

ある福岡県の漁民は、海自体の体力がなくなっていると漏らす。昔は春にアサリをすくに行けば、クツゾコ（舌平目の一種）も一緒に10匹くらいすくえたものだったが「今はなーんもおらん」と嘆く。そして「おらが婆ちゃんの時代の有明海はもっと良か海だったと聞いていた」と話してくれた。お婆ちゃんが今もいてくれたなら、豊かだった頃の有明海の話と一緒に聞いてみたかった。



色落ちしたノリ  
(佐賀県西部)

## Information

### ■長崎県時津町にマツオファームの直売店オープン

諫早湾の開門を訴えている干拓地の入植農家・松尾公春さん（マツオファーム）が経営する「島原らんらん市場」が、長崎県時津町に開店しました。野菜、魚介、精肉、島原の特産品などを扱う産直市場で、販売品には漁民ネットの漁業者による水産品も含まれています。長崎県西彼杵郡時津町野田郷1159-1（旧ふるさと館）／営業時間9:00～18:00／TEL 095-865-7566



### ■諫早で有明海の底生動物調査に関する講演会

有明海保全生態学研究グループの主催による講演会「有明海の底生動物調査から見てきたことと有明海のこれからについて」が、6月11日（火）13:30から諫早図書館視聴覚ホール（諫早市東小路町6-30／市役所隣）で開催されます。同グループ

が毎年続けている有明海の底生動物調査で判明した干拓事業の影響について、長崎大学名誉教授の東幹夫さん、静岡大学大学院教授の佐藤慎一さんが講演します。入場は無料です。

### 漁民ネット事務局より

#### ●漁民ネット年会費納入のお願い

漁民ネットは5月から新年度となります。2019年度の年会費の納入を下記までお願いします。新規入会やカンパも大歓迎です。なお、漁業不振で生活が苦しい方は会費の納入は不要です。

- ・郵便振替口座番号：00120-3-250346
- ・口座名：有明海漁民・市民ネットワーク
- ・年会費：漁業者1000円／一般市民3000円

#### ●全国日本学士会の会報「ACADEMIA」の配布について

会員の皆さまには、全国日本学士会の会報「ACADEMIA」の有明海シンポジウム特集号を同封してお送りしました。会報をご提供いただいた全国日本学士会に感謝申し上げます。